

日本水産学会でアカモクの研究成果を発表

9 月 15～18 日に広島大学で平成 30 年度日本水産学会秋季大会が開催され、全国各地から多くの水産関係研究者等が参集しました。

当センターからは、近年全国的に注目を浴びている海藻アカモクの養殖技術安定化に向けた研究成果として、「発芽率が高いアカモクの幼胚※を、効率的かつ大量に採取するためにはどうすれば良いか」という内容で発表しました。発表に対する参加者からの関心も高く、「幼胚の放出は海水温の変化によって引き起こされるのか」「時期によって幼胚のサイズに差があるか検討してはどうか」といった質問や意見をいただきました。

今後は、得られた情報や意見を基に研究内容を追加し、アカモク養殖の更なる安定化を目指します。

※ 幼胚：陸上植物の種子に相当するもので、大きさは 0.2～0.3mm 程度



学会発表の表題スライド
雌の生殖器官（写真左）から
幼胚が放出され、発芽する（写真右）

海洋センター